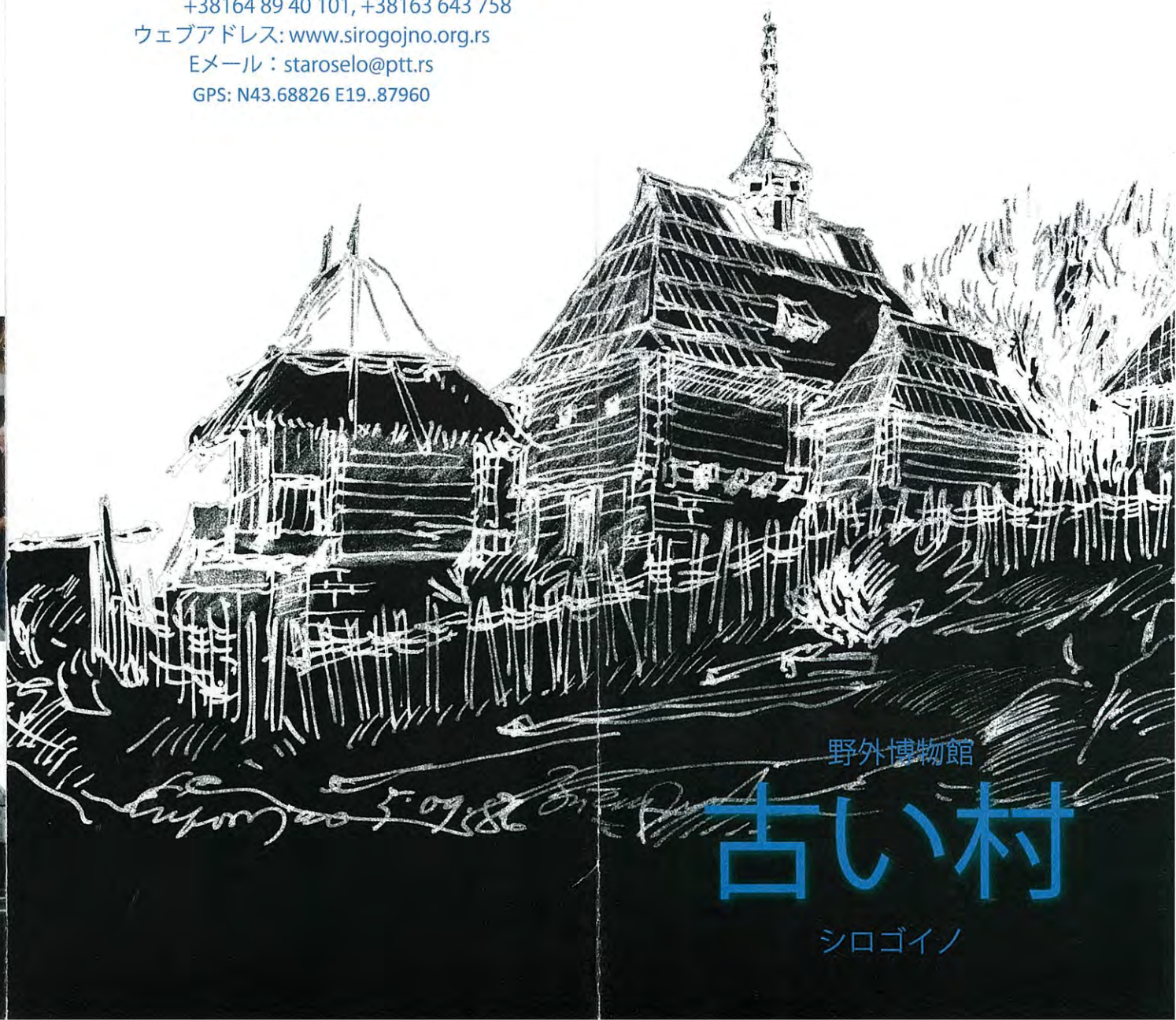


博物館では民俗と工芸品を復興して、一所懸命に無形文化遺産を守っている。
ここではいろいろな展覧会、祭り、催し物、音楽祭、ワークショップ、セミナー、会議などが行われています。

博物館の営業時間は1年中、午前9時から 午後7時までであるが、11月1日ー4月1日午前9時から午後4時までである。
情報：+381 3802 291 +381 3802 586
+38164 89 40 101, +38163 643 758
ウェブアドレス: www.sirogojno.org.rs
Eメール： staroselo@ptt.rs
GPS: N43.68826 E19..87960



野外博物館

古い村

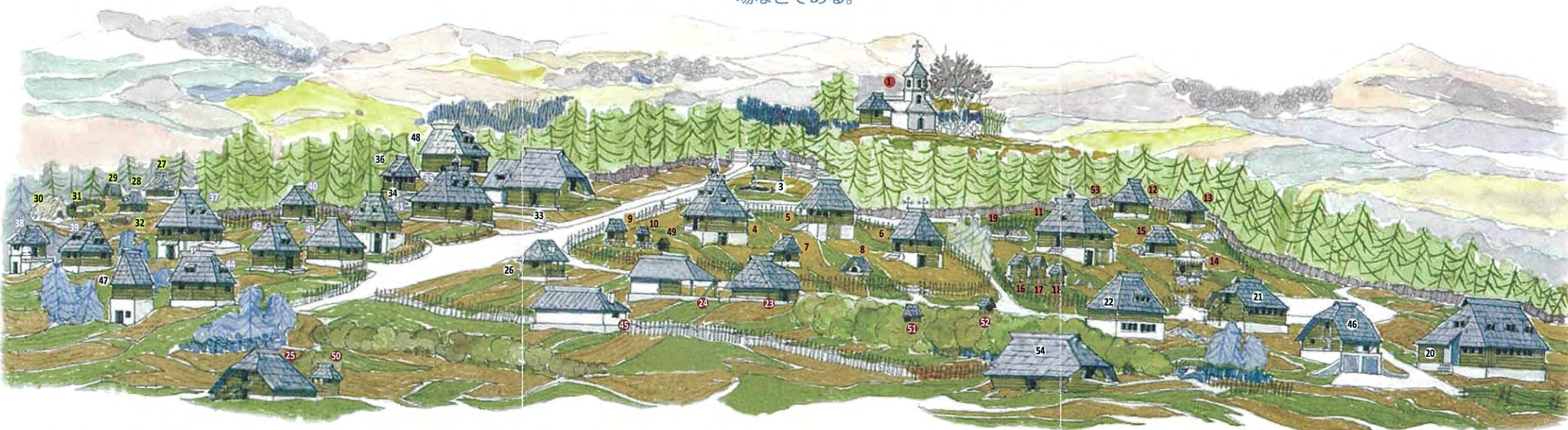
シロゴイノ



シロゴイノの野外博物館『古い村』はズラチボールの伝統的な建築と生活様式を表している。（『古い村』はセルビア語で「スタロ セロ」と言う）。1980年に、人々は聖使徒ピーターとパベルに捧げられた教会の近くにある場所へ真性の民族建築の施設を動かし始めた。それとともに博物館の建設が始まった。博物館は教会と一いっしょにセルビア国家により守られており、非常に重要な文化遺産としてされている。博物館の展示は二つの農場から成り立っている。

19世紀の後半と20世紀のはじめに農村家族はそんな農場の住宅や補助的な建物に住んでいた。各々農場にはズラチボールの家が一つずつある。特徴によって、このような家はディナラ(Dinaric)タイプの丸太小屋である。ディナラ丸太小屋はかたむきの土地に建てられている。ベースは、長方形である。壁は水平に積み重ねられた丸太から作られたものである。丸太は、隅に取り付けられている。その関係はセルビア語で「チェルト」と言う。ベースは石の擁壁に支えられている。丸太小屋の屋根は高く険しくて、木製の屋根板で覆われているものである。家のそばに夫婦が寝ていた補助的な建物がある。農場にある丸太小屋の数は、組合の大きさ、または結婚していた男の人に依じて異なっていた。世帯はいろいろな補助的な建物から成っていた。その建物は、酪農(乳製品を作り、保存するための小屋)や納屋(穀類を保存するための小屋)やサラシ(トウモロコシを保存するための小屋)やカチャラ(ラキヤと言うアルコール飲料を作る大釜がある小屋)やパンの炉と養蜂場やミシャナ(くだものをドライするための小屋)や厩舎や養豚場などである。

。農民の夏宿泊施設は羊飼いが春から秋まで住んでいた小屋を含む。小屋が二つとクチェル(移動式の家、または櫓にあるベッド。羊飼いはいつも家畜のちかくにいるためにクチェルを使った)がある。小屋の近くに円錐形の原始的な羊飼いの家が再建された。博物館には作業場も三つある。樽を作る作業場と鍋を作る作業場と鍛冶場はその三つである。土器が手動ハンドルを使って作られた。博物館の施設にある家具、食器、機器、道具と工具はすべて本物である。多くの小屋も本物であるが、博物館のプログラムのために部分的に改造された。それは ホール、夏舞台、ハーブ製品を売る店、工芸品製品を売る店、居酒屋と宿舎である。



① 使徒ピーターとパベルのきょうかい教会

- ④ 家
- ⑤ 樽を作る作業場がある建物
- ⑥ 十字架のある建物
- ⑦ 酪農
- ⑧ パン屋
- ⑨ なや、納屋
- ⑩ サラシ
- ⑪ 鳥屋

- ⑫ 鍋を作る作業場がある家
- ⑬ 持参金として持ってきた家
- ⑭ たばこを売る店
- ⑮ 食べ物と子供を敵から隠す家
- ⑯ 酪農
- ⑰ 納屋
- ⑱ ペラダがあるサラシ
- ⑲ 油を作る作業場
- ⑳ 野菜の倉庫(大抵芋)

- ㉔ カチャラ
- ㉕ ミシャナ
- ㉖ 牛舎
- ㉗ 鍛冶場
- ㉘ 羊舎
- ㉙ 養豚場
- ㉚ サラシ

- ㉗ 小屋
- ㉘ 小屋
- ㉙ クチェル
- ㉚ 羊飼いの家
- ㉛ 羊舎
- ㉜ 水たらい

- ③ 水道
- ②① 教育ワークショップ
- ②② 木作業場
- ②③ 学芸員・保全ワークショップ
- ②④ 警備員
- ②⑤ ホール・ギャラリー
- ②⑥ 夏舞台
- ②⑦ 建物
- ②⑧ 図書館・学芸員サービス
- ②⑨ 建物
- ②⑩ 博物館サービス
- ②⑪ デボー

- ② 入り口 情報
- ③⑤ 店
- ③⑦ 居酒屋
- ③⑧ 宿舎
- ③⑨ 宿舎
- ③⑩ 宿舎
- ③⑪ 宿舎
- ③⑫ 宿舎
- ③⑬ 宿舎
- ③⑭ 宿舎